岡崎市民病院広報誌

つ・な・が・る
Tsu-na-ga-ru

岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

TAKE FREE
ご自由にお持ちください

4月号 2023 April No.13

SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED plus+ 病院を知ろう

時間との闘いに組織力で挑む。

脳卒中治療特集

CONTENTS

1 治療を学ぼう
2 チーム医療を知ろう
3 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

当院は、24時間365日、脳卒中患者さんの受け入れと最善の治療提供に邁進しています。今回の特集では脳卒中治療について取り上げ、脳神経内科と脳神経外科の専門医の話をご紹介します。ぜひご一読いただき、脳卒中の治療や予防に対して関心を持っていただきたいと思います。

SPECIAL REPORT

時間との闘いに組織力で挑む。

脳卒中治療特集

脳神経内科と脳神経外科が密に連携し、急性期の脳卒中治療に力を尽くす。

CHAPTER 01

脳梗塞を発症した患者が救急搬送されてきて。

岡崎市民病院には脳卒中を発症した患者が多数、救急搬送されている。この日も、家の中で意識を失って倒れていたという80代の男性が運ばれてきた。救急科から連絡を受けた脳神経内科の大山健は、急いで救急外来に駆けつけた。患者の意識は朦朧としていて言葉が出ず、右半身を動かすことができない。明らかに脳の血管が詰まる脳梗塞が疑われたが、正確な発症時間はよくわからないという。大山はCTとMRI検査を指示すると同時に、脳神経外科に連絡した。「発症から4.5時間以内の脳梗塞であれば、血栓を薬剤で溶かす〈t-PA療法（血栓溶解療法）〉を適用できます。しかし、この患者さんは発症時間がわからないため、内科的治療は難しい。そこで、早く脳神経外科に繋ごうと判断しました」と、大山は振り返る。

大山と一緒に検査画像を確認した脳神経外科の錦古里（きんこり）武志は、うーんと唸った。大脳に血液を送る最も大切な血管である左内頸動脈が詰まっていたからだ。一刻も早く血流を再開しないと、大きな後遺症が残ってしまう。カテーテルを挿入して血栓を取り除く〈脳血管内治療〉を行うことを即断した。錦古里たちは速やかに患者をカテーテル室へ移送。看護師や診療放射線技師らがテキパキと準備をして、脳血管内治療が始まった。患者が救急搬送されてから、ちょうど1時間が経とうとしていた。この〈救急車の到着から1時間以内〉というのは、錦古里が常に目標とする時間だ。「脳の血管が詰まり、その先の血流が途絶えると、数分で脳細胞の壊死が始まり、時間が経つほど壊死の範囲が広がっていきます。一刻も早く治療を開始する、その目標を、1時間以内と定めています」と錦古里は説明する。幸い、この患者は1時間ほどの手術で、頸動脈に詰まった血栓は速やかに取り除くことができた。手術後、詰まっていた先の血流が流れるのを画像で確認すると、スタッフ一同、安堵の表情を浮かべた。「治療は終わりましたよ。わかりますか」。錦古里が話しかけると、患者はゆっくり返事をした。手術後の経過も良好で、患者は約2週間後、大きな後遺症を残さず歩いて退院していった。

COLUMN

●脳卒中には、血管が詰まって起こる〈脳梗塞〉のほか、脳の細い血管が裂けて出血する〈脳出血〉、脳の血管の一部がこぶ（瘤）状に拡張して破裂する〈くも膜下出血〉がある。

●岡崎市民病院の脳神経内科、脳神経外科は連携して、これらの治療に総合的に対応。くも膜下出血の原因となる未破裂脳動脈瘤に対しては、カテーテルを用いた〈脳動脈瘤コイル塞栓術〉を標準的治療法として積極的に行い、良好な治療成績を重ねている。

CHAPTER 02

一分一秒を争う 脳梗塞から命を救うために。

脳梗塞は命に直結する病気であり、たとえ一命を取り留めたとしても、約7割の人に半身麻痺、言語障害、知覚障害などの後遺症が残り、重症の場合は寝たきりになってしまう。深刻な後遺症を減らすには、一分一秒でも早い血流の再開をめざし、治療までの〈時間〉をできる限り縮めるほか方策はない。「当院では救急科と脳神経内科、脳神経外科の連携のもと、訓練を積んだ医師、看護師、診療放射線技師らが昼夜を問わず治療できる体制をつくってきました。この組織力こそが、私たちの最大の武器です」と錦古里は言う。実際、この充実した体制が認められ、同院は日本脳卒中学会より〈一次脳卒中センターコア施設＝24時間365日脳卒中患者を受け入れ、t-PA療法や脳血管内治療を行える施設〉に認定。地域の脳卒中治療を牽引する立場にある。

今後の目標はどんなことだろうか。「院外では、地域医療機関との連携を推進するほか、救急隊との連携を深め、脳梗塞の疑いがある人を早く搬送してもらう。院内ではここまで築いた脳卒中チームの組織力をさらに強化し、高度化していきたいと思います」と錦古里。その言葉にうなずき、大山はこう続ける。「もう一つお願いしたいのは、地域の皆さんの意識づけです。最近は症状が出てすぐに来院する人が増えてきましたが、それでもまだ一晩様子を見てから来る方がいらっしゃいます。それではもう、助かる脳も助けることはできません」。脳梗塞の初期症状は〈顔の片側がゆがむ、腕の片側の麻痺、呂律が回らない〉など。これらの異変があれば「ためらわずに救急車を呼んでほしい」と、大山は言葉に力を込める。「地域住民の高い意識、地域医療機関との強固な連携、救急隊の機動力、そして、高度な急性期医療と回復期リハビリテーション医療。これらが整えば、この地域から脳卒中で苦しむ人を一人でも多く救うことができます。そんな地域づくりをめざしていきたいと思います」（大山）。

BACK STAGE

治療の「均てん化」を目指す日本脳卒中学会の取り組み。

●日本脳卒中学会は全国どこに住んでいても同じレベルの治療が受けられる「均てん化」を目指し、脳血管の血栓を溶かす薬剤治療が適正に実施できる施設・医師の基準を決め、24時間365日対応可能な施設を「一次脳卒中センター」として認定公表している。

●愛知県内では11病院が認定公表されており、西三河南部東医療圏では岡崎市民病院が「一次脳卒中センターコア施設」として認定公表されている。

岡崎のCure（キュア）

治療を学ぼう

今回のテーマ
くも膜下出血（破裂脳動脈瘤）の治療

くも膜下出血（破裂脳動脈瘤）の治療とは？

脳の血管の破裂した動脈瘤に対し、再破裂・再出血を防ぐ治療を行います。

くも膜下出血はある日突然、脳動脈瘤が破裂する病気。

くも膜下出血は、脳卒中の中でも最も死亡率の高い深刻な病気です。脳は硬膜・くも膜・軟膜という3層の膜に覆われていますが、このうち、くも膜と軟膜の間に出血が起こるもので、発症すると頭を強く殴られたような激しい頭痛に襲われます。原因の多くは、脳の血管にできた動脈瘤です。そのコブがある日突然破裂することによって起こります。

くも膜下出血の治療は、再出血の予防が目的になります。再出血が起きると死亡率が高く、重篤な後遺症を残すこともさらに増えるからです。当院では24時間365日、救急搬送を受け入れ、緊急治療に対応。カテーテルを用いた「脳動脈瘤コイル塞栓術」、もしくは頭部を切開する「開頭クリッピング術」を選択し、安全で最善の治療を提供しています。

カテーテルを用いた「脳動脈瘤コイル塞栓術」。

「脳動脈瘤コイル塞栓術」は頭部を切ることなく、血管の中から行う治療法です。足の付け根などの動脈からカテーテルと呼ばれる細い管を挿入し、破裂した脳動脈瘤まで到達させ、そこにプラチナ製コイル（細い金属の糸玉）を詰めて、血液の流れ込む隙間をなくします。こうすることによって、脳動脈瘤が再び破裂して出血するのを防ぐことができます。

また、脳動脈瘤の形状はいびつなもの、寸胴のものなどさまざまで、コイルを収めるのが難しいこともあります。そういう場合は、バルーン（風船）を使ってコイルを押さえて詰めたり、コイル突出防止用のステント（金属のメッシュ状の筒）を用いるなど、緻密で繊細な技術を駆使して、再出血の可能性を最大限、低減させるよう努めています。

Doctor's message

脳神経外科
錦古里 武志

未破裂脳動脈瘤を治療することでくも膜下出血を予防できます。

くも膜下出血は一旦発症すると、命に関わる怖い病気です。それを予防する方法として、未破裂脳動脈瘤の治療があります。

未破裂脳動脈瘤は、動脈にできたコブが破裂しないで留まっている状態です。コブが小さいうちは経過を観察していきますが、破裂の危険があるほど大きくなれば、治療を検討します。当院では上部で紹介した「脳動脈瘤コイル塞栓術」を標準治療として、多くの実績をあげています。なお、未破裂脳動脈瘤のほとんどは症状がなく、脳ドックの頭部MRI検査などで見つかります。脳卒中の発症リスクが高まる40代以上になったら、定期的に脳の検査を受けることをおすすめします。

プラスα ▶がん予防① 定期的にがん検診を受けましょう。早期発見・早期治療のチャンスを逃さずに。

岡崎のTeam(チーム)

チーム医療を知ろう

今回のテーマ
ストロークチーム

多様な専門家が知識と技術を持ち寄り、脳卒中患者さんの回復を支援しています。

脳卒中患者さんをサポートするために、多職種が連携しています。

脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)を発症すると、運動や感覚、言葉に障害が生まれ、自分で動いたり話したりするのが困難になるケースが多くあります。そうした患者さんをさまざまな角度からサポートするために、当院では多職種によるストロークチームを立ち上げて活動しています。「ストローク」は英語で、脳卒中という意味です。

ストロークチームのメンバーは、脳神経内科の医師を筆頭に、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、事務職など多岐にわたります。入院している脳卒中患者さんについて全員が情報共有し、どんなアプローチをすれば一日も早く日常生活を取り戻せるかを検討し、効果的なサポートを実践しています。

早期退院をめざしさまざまなサポートを行っています。

ストロークチームでは患者さんの障害に合わせて、多様なサポートを提供しています。その活動の一例をご紹介します。

食べ物を飲み込みにくくなった患者さんに対しては、言語聴覚士や管理栄養士が中心になってサポート。食べ物の形態や食事の姿勢などを工夫し、安全に食べられるよう支えています。体に麻痺のある患者さんに対しては、理学療法士や作業療法士、医師、看護師が関わり、早期からリハビリテーションをスタート。障害のある手足の運動や残った能力を高める運動を行っていきます。また、スムーズな退院をめざして、医療ソーシャルワーカーも早い段階から関わります。転院先の病院紹介や転院手続き、介護保険の申請などをお手伝いすることで、患者さんとご家族を支えています。

Doctor's message

脳神経内科
大山 健

ストロークチームのサポートは退院後へと繋がっています。

脳卒中の治療は急性期医療だけで終わらず、その後も継続して患者さんを支えていくことが必要です。そのためストロークチームでは、地域の医療機関や施設との連携にも力を入れています。たとえば、回復リハビリテーション病院に転院する場合は、転院先の病院へ患者さんの情報を伝え、しっかり橋渡しします。退院後自宅に戻る場合は、かかりつけ医の先生や在宅医療チームと情報を共有。安全に自宅で療養できるような環境づくりを支援しています。

当院ではこれからも院内外の連携に力を注ぎ、患者さん一人ひとりを地域全体で支えるような体制づくりをめざしていきたいと考えています。

プラスα ▶がん予防② 太りすぎず、やせすぎず、適正な体重管理を。日常生活を活動的に過ごしましょう。

岡崎市民病院WEBフェスティバル2023Winterを開催しました。

2023年2月11日（祝）に、「岡崎市民病院WEBフェスティバル2023Winter～健康と幸せに寄り添う～」を開催しました。今回のフェスティバルは、岡崎市民病院公式YouTubeチャンネルでのLIVE配信に初挑戦。当院の医師とエフエムEGAOのパーソナリティが対話形式で繰り広げる医学講座、スタッフの本音が聞ける座談会のほか、院内ツアー体験やコグニサイズ体験にはオカザえもんを起用。多くの皆さんに視聴していただきました。次回のフェスティバルは2023年秋に当院での現地開催を予定しています。

YouTube

岡崎市民病院
公式YouTubeチャンネルは
こちら

岡崎市民病院の魅力発信! レジナビフェア2023名古屋、マイナビ看護学生就職セミナーに出展。

医学生、看護学生向け就職フェア・セミナーの場を活用し、岡崎市民病院の魅力を発信しています。医師、看護師としての第一歩を、私たちと一緒にスタートしませんか?

レジナビフェア
2023名古屋

2023.2.12

マイナビ看護学生
就職セミナー

2023.2.11/3.11

先輩のリアルな
ホンネも大公開

看護師採用サイトを
リニューアルしました!

岡崎市民病院 看護師　検索

https://www.okazakihospital.jp/nurse/

20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00～

4月20日（木）	集中治療ってどんなとこ? 集中ケア認定看護師 福田昌子
5月18日（木）	心と体のメンテしてますか? 診療技術室 心理療法士 高島綾子
6月15日（木）	こんな症状あったら脳卒中? 脳神経内科 大山 健

エフエム EGAO
（76.3MHz）

これまでの
放送内容は
こちらから!

病院広報誌 特設サイト

つ・な・が・る
Tsu-na-ga-ru

こちら
から

LINE〈公式〉
アカウント
こちらから

岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111　https://www.okazakihospital.jp/

つ・な・が・る Tsu-na-ga-ru 2023 No.13 4月号

発行責任者／院長 小林 靖　発行／岡崎市民病院 広報戦略チーム
記事提供／中日新聞広告局　編集協力／プロジェクトリンク事務局　発行／2023年4月